

令和 3 年度
グループホーム 亀天福寿苑
事業報告書

(1) 基本方針

「一緒に」「共に」を大切にし、私たちは支援します。

(運営方針)

- ① ご利用者一人一人が「その人らしく」生活が送れるように支援します。
- ② ご家族と積極的に交流し、「安心」を提供します。
- ③ 地域の方との交流を行い、より良い関係作りを行います。
- ④ 職員の質の向上を目指し、より良い職場環境を提供します。

(重点目標)

- ① ご利用者がその人らしく生き活きとした生活を送って頂くことができるように、認知症ケアの専門職チームとして支援をしました。日々の会話やレクリエーションを通じてご利用者から生活歴や趣味のお話を伺うことができました。ご家族からも定期的に苑での様子を伝えすることで、入居前の生活歴や習慣、趣味などを伺うことができました。伺った生活歴や習慣などは職員間で情報共有を行いケアプランに取り入れたうえで毎月のアセスメントを行って一人一人に合った支援を行うことができました。

季節の行事では、新型コロナウイルスの影響でご家族や地域の方に参加して頂く事が出来ませんでした。各ユニットで夏祭り・敬老会・クリスマス会を行いました。季節を感じて頂くことができるように、季節に合った内容を取り入れ実施することができました。また、壁画作りを一緒に行って頂くことで、一緒に作り上げることの達成感を感じて頂くことができる支援を行うことができました。

レクリエーションでは一人一人に合わせた内容を提供し、心身の機能維持を図ることができるように支援を行うことができました。

- ② ご利用者、1人1人の心身の状態観察・把握を行い、福寿苑で安定した生活が送れるように努めました。

毎日の食事摂取量や排泄状態、睡眠状態、日常の活動の状態を把握することで異常を早期に発見し、職員間での連携を行い、対応を行うことができました。介護員から看護師への報告を細目に行うことで、ご家族や医療との連携を図ることができました。

個別リハビリや脳トレーニングでは、ご利用者一人一人の状態に合わせた内容を提供することができました。個別レクリエーションを行うことで安心してレクリエーションに参加して頂くことができました。生活リハビリを継続して実施し、その時の状態に合わせての対応を行うことができるように職

員間でも情報の共有を行うことを大切にして支援を行うことができました。

安全な生活を送る為に気づきを多く持つことができるようヒヤリハット報告書を増やすことに努めてきました。

- ③ 令和3年度は、新型コロナウイルス流行もあり、地域の方との交流が難しい年となりました。近所の方との挨拶の際に会話をするなどの交流に努めました。地域の防災会議に参加し、お声掛けをして頂くこともあり、地域の情報の交換を行いました。

- ④ 居宅介護支援事業所や地域連携室の方と連絡を取り合い、情報共有を行いました。病院や老人保健施設など訪問先を増やし、定期的に広報を配ることで、気軽に問い合わせをして頂くことができる関係作りに努めました。問い合わせの際には、苑の様子をお伝えし、365日の申し込みの受付、気軽に来られる雰囲気作りを行いました。

受診の際には、新型コロナウイルス感染予防の為に、ご家族のみの受診も多くあり、その際には、ご本人の状態が医療関係者に伝わるよう暮らしの状況表や病状経過報告書を作成し、情報共有に努めました。また、入院中のご利用者にも、ご家族が安心できるような医療と連携を図りサポートしました。

今後も、居宅介護支援事業所や地域連携室の方と連絡を取り、情報共有に努め、多くの相談が受けられるようにします。

(2) 利用者に対するサービス

● 食事

ご利用者の状態に合わせ、普通食からトロミ剤使用・ミキサー食・お粥・食器の対応等、安心してお食事がとれるようにしています。自身で食事を行うことができることで美味しく食事を楽しんで頂くことができるように必要以上の介助は行わず、安心して食事ができる雰囲気作りを務めていきます。「温かいものは温かく」を大切にし、食事提供しています。中庭で採れた野菜を活用して、誕生日会で一緒におやつ作りをすることで、季節を感じて頂くことができるように努めています。

● 入浴

入浴前には、バイタル確認を行い、異常時には看護師に報告し、安全に入浴することができるように対応を行っています。ご利用者の希望を聞き、その方の好まれる温度で入浴をして頂くことで気持ちよく入浴をして頂くことができるように実施しています。ゆっくりと入浴を行うことで、リラックスをして頂き、落ち着いてお話をすることが出来る時間を持って頂いています。また、ご利用者の身体状態に応じて、普通浴・機械浴、シャワーチェアの使用・清拭の実施をしています。脱衣場・浴室の温度やプライバシーに気をつけて介助を行っています。入浴時には、皮膚の状態観察を行い、異常があればすぐに看護師に連絡をとり対応を行っています。今後も安全、安心に入浴して頂くことができるように努めます。

- 排泄の介助

ご本人のその時の状況を把握しながら、排泄チェック表に基づき、トイレへの声掛けや誘導を行っています。声掛け時、拒否がある方は、時間をおき対応を行う、職員が交代をして対応を行うなどプライバシーにも配慮を行いながら対応しています。汚染があった場合は、状況に応じて清拭やシャワー浴、入浴を行っています。排便コントロールも排泄チェック表に基づき、看護師と連携をとり下剤の服用や水分摂取、体を動かす等で調整を行っています。環境面についても、壁・便座・床等の掃除を毎日行い、汚染時にはその都度掃除を行い、清潔が保てるように行っています。

- 健康管理

毎日のバイタル測定の実施、確認、食事摂取量の把握、排泄状態の確認、日々の状態との変化の有無、既往歴などを把握し、異常時の早期発見に努めました。異常時には、看護師への報告を早急に行い、看護師の指示のもと対応を行いました。早期対応を行うことで体調の悪化や、身体機能の低下の予防に努めました。新型コロナウイルスの感染状態の把握を行い、感染予防対策について、理解をし、感染を予防することに努めました。ご利用者、職員共に定期的な健康診断、予防接種を行いました。季節に応じた衣類の対応や、定期的な換気の実施、手指消毒を行い健康管理に努めました。

- 機能訓練

レクリエーションとして、午前中には体を動かすレクリエーションを取り入れました。毎日のラジオ体操を行い、体操後には歩行訓練や車椅子の自走については、ご利用者にも習慣付いており、お互いに声を掛け合って参加され体力作りに取り組んで頂くことができました。また、風船バレーや玉入れやボールを使ったゲームなど、方法を変えたり、ルールを新しくすることで幅広く楽しみながら体力作りに取り組むことが出来ました。午後からは、トランプやことわざクイズや計算問題など脳トレーニングを行ったり、指先を動かすように創作活動として季節の壁画作りや行事で使う創作物の作成に取り組みました。個別にて職員と一緒に行うことで、出来上がった作品に自身が携わっている事の喜びを感じられていました。日々の生活の中で、台拭き、洗濯物畳みや洗濯物干し、ご自分で洗濯物を居室へ持って帰って頂く等自然に身体を動かして頂いています。また、手を出しすぎない介護を行う事で残存機能を使って頂いています。自由に動いて頂くようにしています。

- 行事

ご利用者には四季を感じて頂けるように、季節に合わせた行事を行いました。令和3年度は、新型コロナウイルスの流行もあり、夏祭り、敬老会

等ご家族や地域の方と一緒に過ごす事が出来ませんでした。各ユニットで季節に合わせた行事を行いました。餅つき大会やおはぎ作りを行いご利用者から教えていただく行事も取り入れました。オリンピックなど今年度に因んだ行事を取り入れ楽しんで頂くことができました。

- ボランティアの受け入れ、地域交流

令和3年度は、新型コロナウイルス流行の為、実施できませんでした。今後は、感染予防を徹底した上でのボランティアの受け入れや地域交流を考えて行きたいと思います。

- 防災・防火対策

年に2回、4月と10月に苑内での防災訓練を実施しています。南海地震を想定し、津波や家屋の災害についても考える機会を設け、意見の交換を行っています。立地場所から土砂災害への対応の訓練も行いました。防火訓練時には、夜間帯と日勤帯の訓練を行っています。また、水消火器を使用しての消火訓練や防災設備の講習を行っています。その時には、避難誘導をより早く、安全に実施する方法の検討も行っています。防災の知識を高めるために防災に関する勉強会を行っています。高部地区における防災会議にも出席させて頂き、情報の共有を行っています。今後も南海地震を視野に入れ、地域の方と連携できるよう、より力を入れて取り組みたいと思います。

- 職員研修

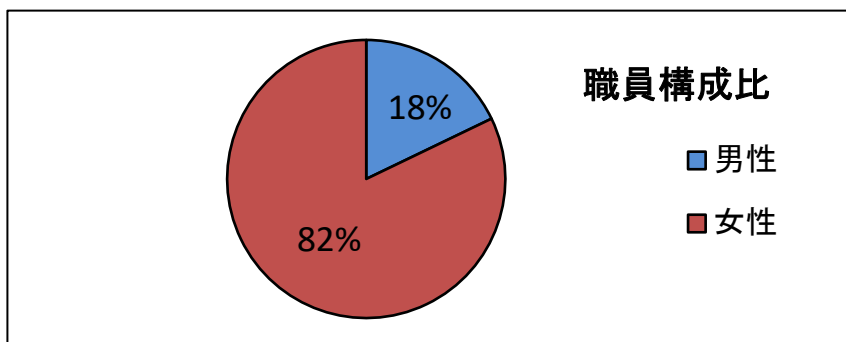
内部研修の参加により、知識・技術の習得に努めました。年間スケジュールを作成の際には、職員の意見を取り入れ、職員が学びたいと思うことを内容に含むようにしました。毎月の内部研修では、担当職員を当て、自身で勉強を行い、内容を発表することで、共に学ぶという取り組みを行いました。外部研修では、新型コロナウイルス流行の為、参加できませんでした。法人内で行った研修では、事業所にて、全職員への勉強会に取り入れています。今後も知識・技術の習得を行い、ご利用者により良い支援を行うよう努めていきます。

1. 事業所

① 概要

事業所名	グループホーム 亀天福寿苑		
事業所種別	認知症対応型共同生活介護事業所		
事業所住所	今治市高部字基石山甲661番地1		
管理者職名	山田 古津枝		
職員数	男性	女性	総数
	4名	16名	18名

(令和4年3月31日現在)



②職員紹介

亀天福寿苑は、管理職・看護師・計画作成担当者・介護員にて形成されております。

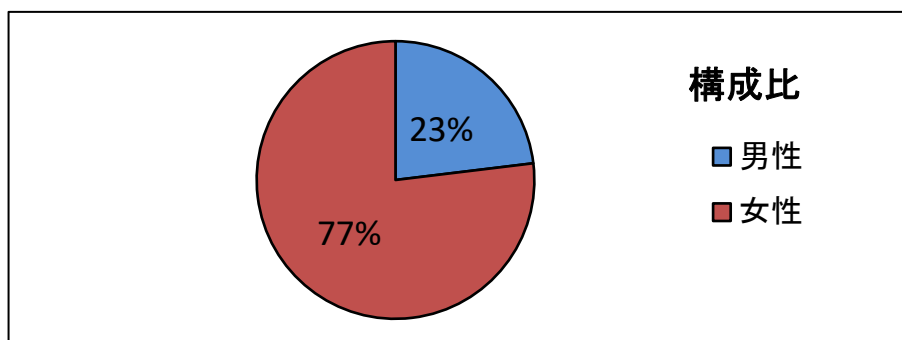
管理職1名、計画作成担当者2名、看護師1名、介護員15名でご利用者18名の支援を行っています。

介護員15名のうち、介護福祉士4名 初任者研修修了者5名 がご利用者の支援を行っております。管理職、計画作成担当者、看護師にも、社会福祉士・介護福祉士の資格の取得者や認知症リーダー研修修了者など、認知症対応共同生活介護には欠かせない専門知識を有した職員が属しております。また、手作りお菓子や作品制作、昔話を得意とする職員が揃っています。

亀天福寿苑が運営理念として掲げている「一緒に共に」を大切に、私たちは支援します。」を大切にし職員一同、支援を行っています。

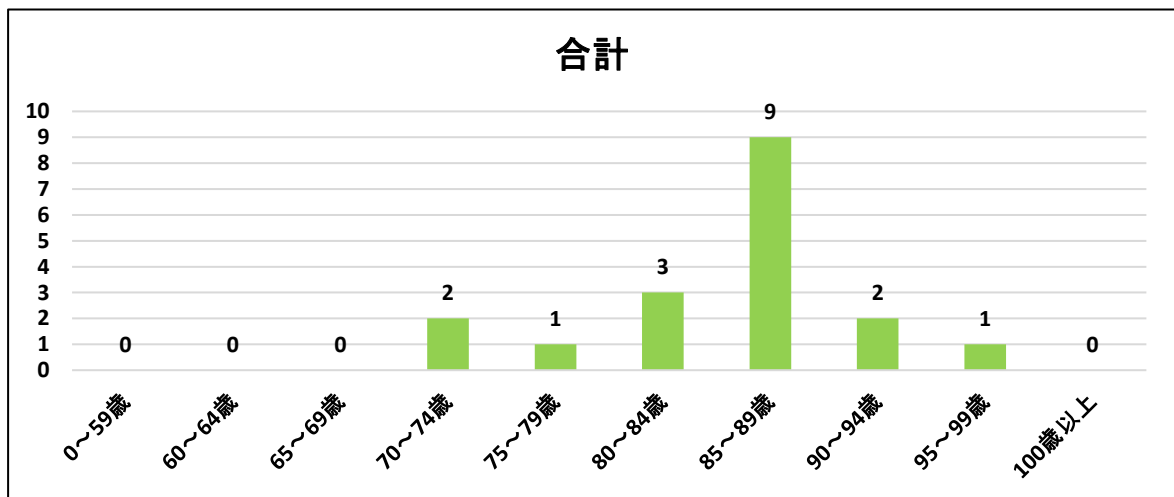
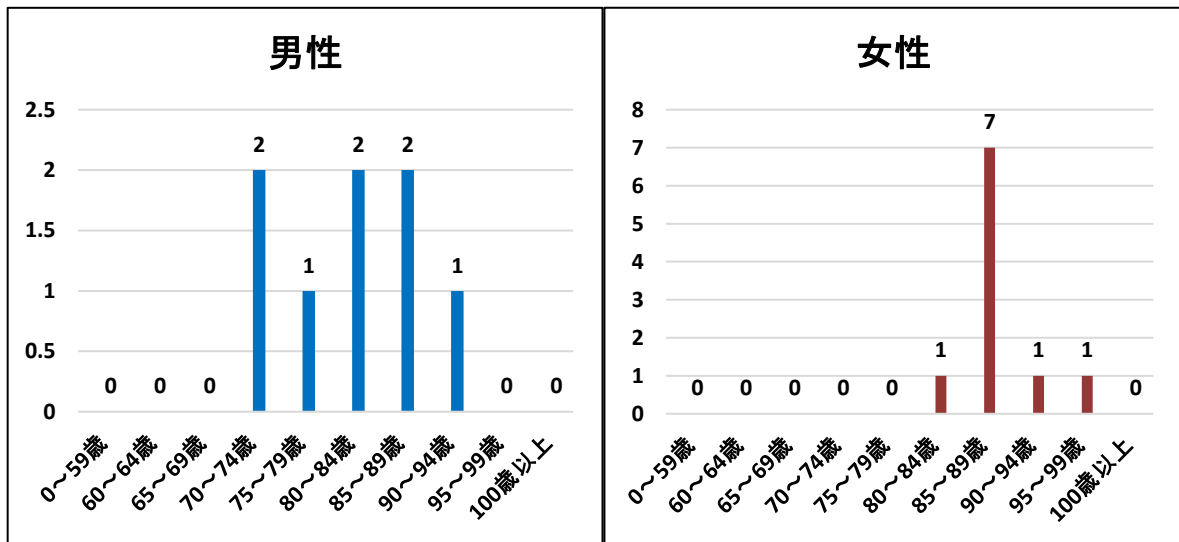
2. 定員及び現在人員(令和4年3月31日現在)

定員	現在人員	性別	
		男性	女性
27名	18名	8名	10名



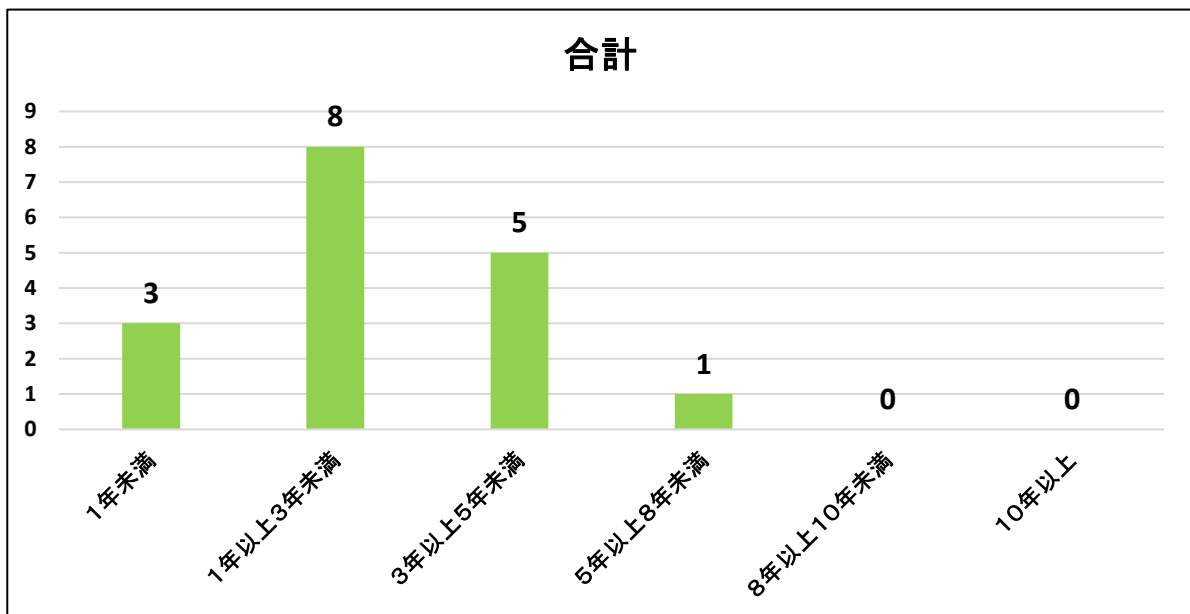
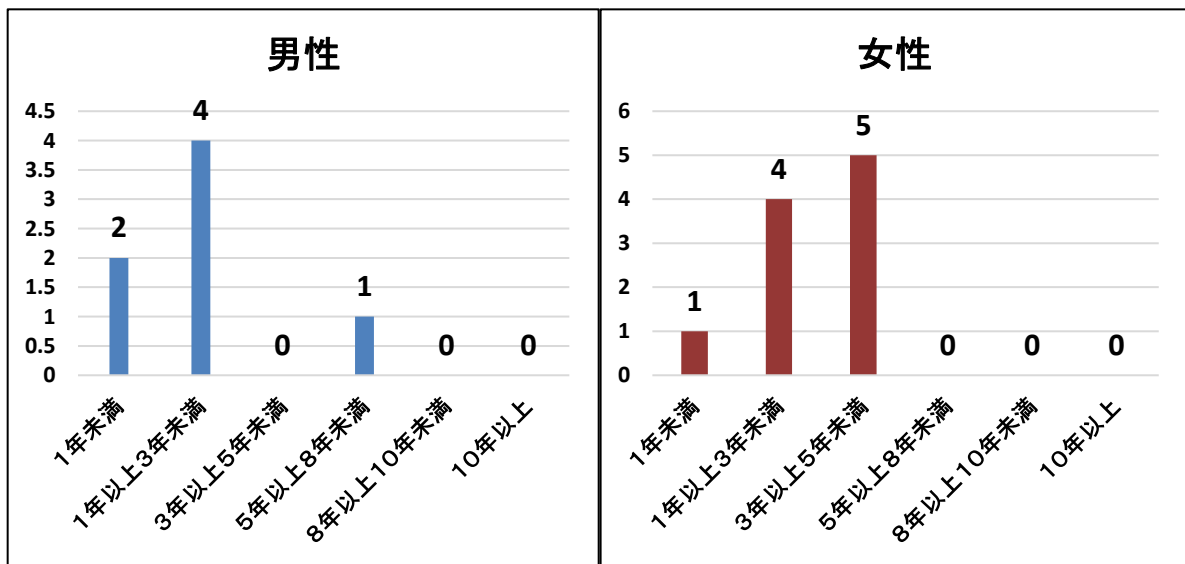
2. 年齢別人員

	男性	女性	合計人数と構成比	
			人数(名)	構成比(%)
0～59歳	0	0	0	0
60～64歳	0	0	0	0
65～69歳	0	0	0	0
70～74歳	2	0	2	4
75～79歳	1	0	1	8
80～84歳	2	1	3	8
85～89歳	2	7	9	38
90～94歳	1	1	2	23
95～99歳	0	1	1	11
100歳以上	0	0	0	0
合計	8	10	18	100
	最高年齢	最低年齢	平均年齢	男女平均年齢
男性	93	70	81.9	
女性	95	82	89.2	



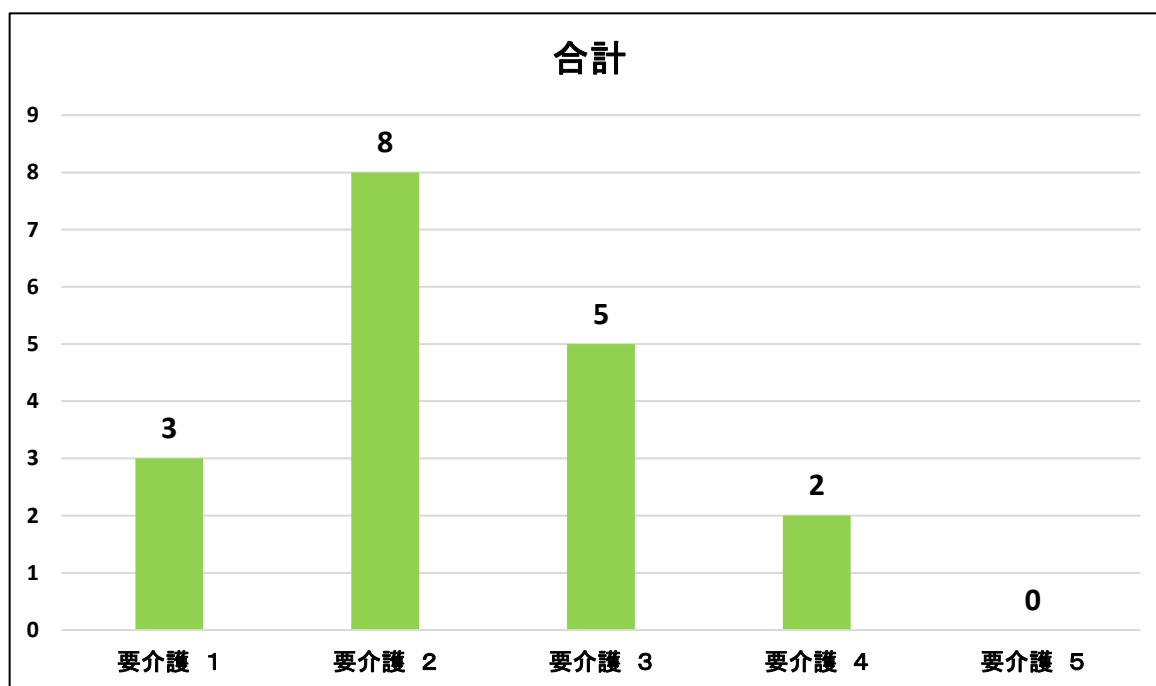
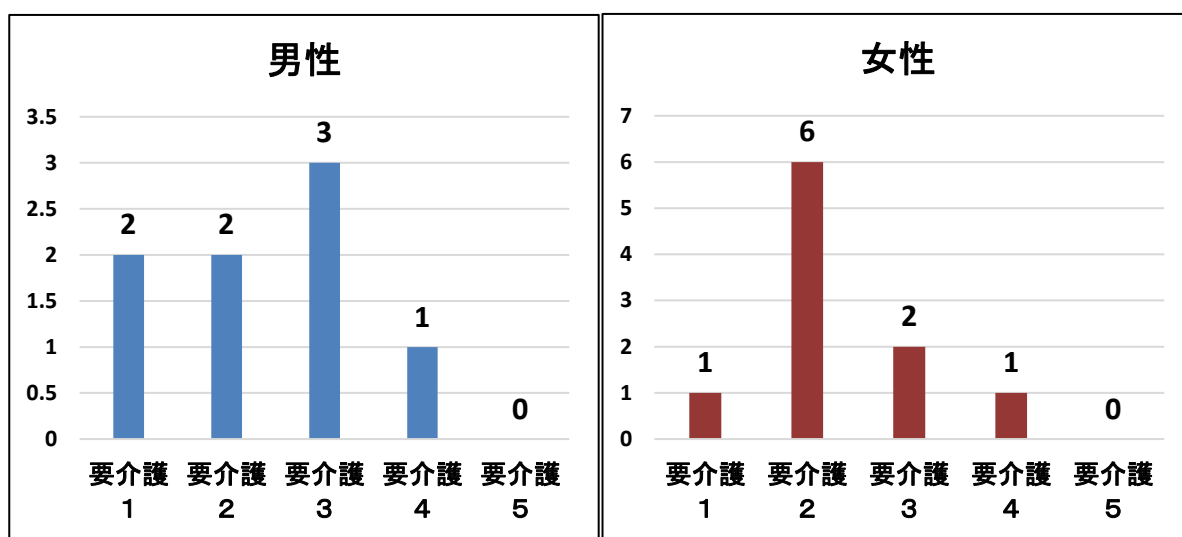
3. 入居期間別人員

	男性(名)	女性(名)	合計(名)	構成比(%)
1年未満	2	1	3	50
1年以上3年未満	4	4	8	23
3年以上5年未満	0	5	5	19
5年以上8年未満	1	0	1	8
8年以上10年未満	0	0	0	0
10年以上	0	0	0	0
合計	7	10	18	100
平均入居期間	2年7か月	2年5か月	2年5か月	



4. 平均介護度別人員

	男性(名)	女性(名)	合計	
			人数(名)	構成比(%)
要介護 1	2	1	3	15
要介護 2	2	6	8	27
要介護 3	3	2	5	35
要介護 4	1	1	2	19
要介護 5	0	0	0	0
合計	8	10	18	100
平均介護度	2.7	3	2.6	



5. 面会状況(令和3年4月1日～ 令和4年3月31日迄の1年間)

総数	24
1か月平均	2人
最高(1人あたり)	8回
最低(1人あたり)	1回
年間1人平均	1.3人
1か月1人平均	0.108人

6. 研修実施状況

【内部研修】

実施月	研修内容	研修講師	出席者数
4月	施設の種類を理解し、グループホーム以外の施設を紹介することができるようになる。また、プライバシー保護を理解し、利用者様が気持ちよく生活が送れるような支援ができる。	介護職員	14名
5月	認知症の種類や主変症状を学び、利用者の気持ちを考え、行動の理由がわかるようになる。	介護職員	16名
6月	食中毒の原因や何故起こるかを理解し、予防に努める。又、実際にノロウイルスが苑で発生した場合の訓練(シュミレーション)を行い、実践できるようになる。	看護師	19名
7月	虐待・身体拘束について学び、3ロック(スピーチロック・ドラックロック・フィジカルロック)の危険性について理解し、利用者が安心して過ごせるような支援ができる。	介護職員	19名
8月	ケアプランと記録の連動の大切さを理解し、実践する。	介護支援専門員	15名
9月	パワーハラスメントやセクシャルハラスメントとは何かを理解し、より良いしゃくば環境を作る。	介護職員	14名
10月	南海地震が起こった際、どのように行動するかを想定し、いざという時に行動が起こせるようになる。防災訓練を行い改善点を見つける。	介護職員	14名
11月	ヒヤリハットと事故の違いを学び、ヒヤリハットの必要性を理解し、事故に結びつくヒヤリハットを出せるようになる。	介護職員	14名
12月	インフルエンザやコロナの種類を理解し、予防ができるようになる。又実際に苑で起こった際、どのような行動をとるのかの訓練(シュミレーション)を行い、対応できるようになる。	看護師	16名
1月	苑での危険個所や不審者が苑に来た際、どのような対応を取るべきかを学び、実践にいかす。実際に、防犯訓練を行い、改善点を見つける。	介護職員	15名
2月	虐待と身体拘束について学び、なぜしてはいけないかを考えてより良い支援を行う。	介護職員	14名
3月	日中・夜間共に、緊急時どのような対応をするか、何を持って病院に行くかを学び、実践できるようになる。	介護職員	12名

【外部研修】

実施月	研修種類	研修内容	出席者職種
6月	講義	防犯対策について	管理者・介護職員 看護師
7月	講義	認知症介護基礎研修	介護職員
9月	講義	口腔ケア研修	介護職員
	講義	技能実習責任者講習	介護職員
10月	講義	技能実習指導員講習	介護職員
	講義	生活指導員講習	介護職員
11月・12月・3月	講義	認知症介護実践リーダー研修	介護職員
3月	講義	認知症対応型サービス事業管理者研修	介護職員
2月	講義	生活指導員講習	介護職員

7. 行事・クラブ活動及びボランティア受入れ実施状況表

【行事・クラブ活動】

実施月	指導援助者	内容	参加者数
4月	介護職員	お花見ドライブ	23名
	介護職員	お茶会	25名(各ユニット)
	介護職員	かぼちやの種まき	12名
5月	介護職員	福寿苑祭り	25名(各ユニット)
	介護職員	青空カフェ	27名(各ユニット)
6月	介護職員	紙芝居屋	26名(各ユニット)
	介護職員	手作りおやつ	26名(各ユニット)
7月	介護職員	ジャガイモ堀り	12名
	介護職員	七夕	23名(各ユニット)
	介護職員	手作りおやつ	24名(各ユニット)
8月	介護職員	かぼちやの収穫	25名(各ユニット)
	介護職員	夏祭り	25名(各ユニット)
	介護職員	手作りおやつ	25名(各ユニット)
	介護職員	オリンピック～夏	25名(各ユニット)
	介護職員	花火	25名(各ユニット)
9月	介護職員	カボチャケーキ作り	25名(各ユニット)
	介護職員	敬老会	25名(各ユニット)
	介護職員	おはぎ作り	25名(各ユニット)
10月	介護職員	運動会	25名(各ユニット)
	介護職員	ぜんざい作り	26名(各ユニット)
11月	介護職員	さつま芋ケーキ作り	26名(各ユニット)
	介護職員	紅葉ドライブ	21名(各ユニット)
12月	介護職員	クリスマス会	21名(各ユニット)
	介護職員	おもち作り	21名(各ユニット)

1月	介護職員	鏡開き	20名(各ユニット)
	介護職員	うどん作り	22名(各ユニット)
	介護職員	冬季オリンピック	20名(各ユニット)
2月	介護職員	節分	18名(各ユニット)
3月	介護職員	合同誕生日会	18名(各ユニット)
	介護職員	ひな祭り	18名(各ユニット)
	介護職員	おはぎ作り	17名(各ユニット)

【地域交流・ボランティア受入れ状況】

実施月	団体名	内容	参加者数

9. 苦情状況

【苦情状況】

日付	法人との関係	内容
令和3年度		特になし



